

2011年8月29日

中標津町の経済分析

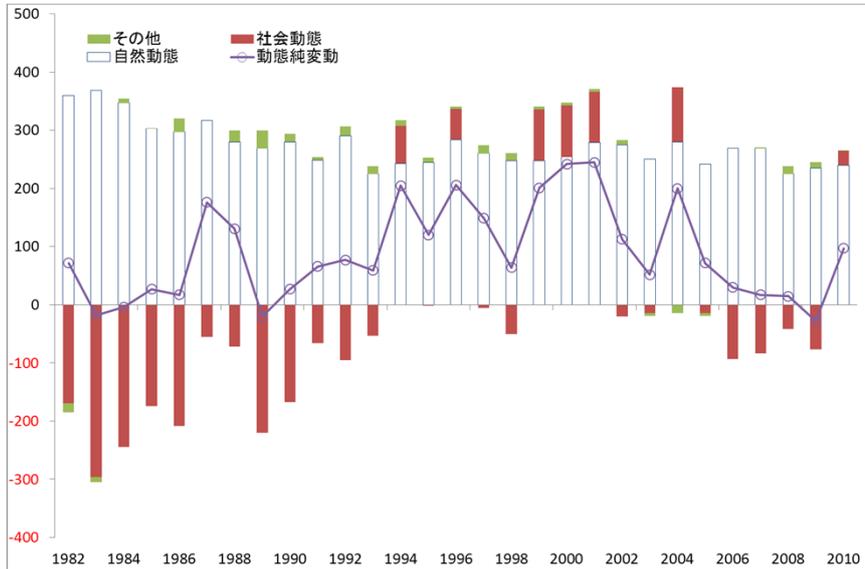
釧路公立大学准教授 下山 朗

全体の流れ

- ① 地域の内部データに基づいた時系列分析
 - 人口動態
 - 産業別の推移
 - 畜産・農産業データ分析
 - 地図データを用いたGPS分析→分析方法を検討中
 - 総合計画から見た地域

- ② 地域間比較に基づいたクロスセクション分析
 - 中標津町は全国的にどこが強くどこが弱い？
 - 主成分分析を用いた検討

中標津町の人口変動



2

人口動態

中標津

	自然動態	社会動態	動態純変動	年末人口	世帯数	1世帯人員
2000	148	89	242	23,436	9,410	2.49
2010	71	25	97	24,249	10,650	2.28

全北海道

	自然動態	社会動態	動態純変動	年末人口	世帯数	1世帯人員
2000	3,210	-12,164	-7,252	5,718,932	2,450,123	2.33
2010	-16,256	-6,658	-21,978	5,498,916	2,670,572	2.06

北海道一町村部

	自然動態	社会動態	動態純変動	年末人口	世帯数	1世帯人員
2000	-1,830	-7,114	-8,678	1,315,749	514,284	2.56
2010	-6,114	-6,587	-12,521	1,060,602	475,452	2.23

出所: 国勢調査

中標津町は、すべてプラスであるため北海道の他都市と比べても非常に優良ではあるが・・・社会動態が減少(マイナスに向かっている)ところは、いいか悪いかは判断が必要。 ⇒ **理由次第**

3

人口動態

人口	1970	1975	1980	1985
中標津市街	11,917 69.7%	14,474 76.5%	16,547 78.1%	17,499 80.7%
中標津・その他	2,536 14.8%	2,128 11.2%	2,350 11.1%	1,994 9.2%
計根別市街	1,554 9.1%	1,444 7.6%	1,424 6.7%	1,244 5.7%
計根別その他	1,083 6.3%	883 4.7%	866 4.1%	938 4.3%
合計	17,090	18,929	21,187	21,675

人口	1990	1995	2000	2005
中標津市街	17,959 82.0%	18,606 83.3%	19,692 85.0%	20,553 86.4%
中標津・その他	1,969 9.0%	1,847 8.3%	1,737 7.5%	1,572 6.6%
計根別市街	1,080 4.9%	1,070 4.8%	1,026 4.4%	979 4.1%
計根別その他	892 4.1%	803 3.6%	724 3.1%	688 2.9%
合計	21,900	22,326	23,179	23,792

出所: 国勢調査

人口の重心は、当初はある程度分散が進んでいたものの、現在は市街地(近郊含む)に一極集中。他の地域の過疎化、限界集落化に対する対策が必要。
 = 他の人口増加地区では生じにくい問題点
 ⇒ ベッドタウン型都市との比較ではミスリーディング

4

産業～事業所数の推移

	1996年	1999年	2001年	2004年	2006年	96-06変化率
第1次	11	10	13	13	32	191%
第2次	231	215	215	204	205	-11%
うち工業	7	7	4	2	3	-57%
うち建設業	166	161	158	154	151	-9%
うち製造業	58	47	53	48	51	-12%
第3次	1,147	1,187	1,236	1,220	1,241	8%
うち卸売・小売業	628	642	652	404	411	-35%
うち金融・保険業	43	44	40	43	37	-14%
うち不動産業	75	103	95	82	81	8%
うち運輸・通信業	35	35	40	39	40	14%
うち電気・ガス 水道熱供給業	3	4	3	3	3	0%
うちサービス業	363	359	406	649	669	84%
総数	1,389	1,412	1,464	1,437	1,478	6%

※2001年までは、飲食業が卸・小売業に分類

仮に250事業所が卸小売⇒サービス業と考えたなら卸・小売、サービス業との9%の伸び

出所: 事業所・企業統計調査

事業所ベースでみると、人口の増加に応じてある程度総数も上昇。しかしながら、産業別でみると、第1次産業の伸びが大きく、製造業は以外にも減少傾向。また第3次産業も伸びているものの、メインはサービス業や運輸・通信業である。 ⇒ 集積都市としての特徴が表れ始めている？

5

産業～就業人口の推移

	1975	1980	1985	1990	1995	2000	2005	75-05変化	95-05変化
第1次	2,035	1,972	1,805	1,703	1,600	1,618	1,511	-26%	-6%
農業	1,737	1,664	1,518	1,476	1,362	1,424	1,428	-18%	5%
林業	280	288	256	191	196	166	54	-81%	-72%
水産業	18	20	31	36	42	28	29	61%	-31%
第2次	2,199	2,739	2,490	2,748	3,116	2,926	2,621	19%	-16%
鉱業	31	55	33	48	47	43	25	-19%	-47%
建設業	1,331	1,852	1,648	1,816	2,237	2,169	1,827	37%	-18%
製造業	837	832	809	884	832	714	769	-8%	-8%
第3次	4,916	5,724	6,273	6,836	7,454	8,110	8,575	74%	15%
卸小売業	1,953	2,393	2,573	2,659	2,875	3,043	3,369	73%	17%
金融保険業	181	219	261	292	284	252	222	23%	-22%
不動産業	24	28	36	120	34	35	35	46%	3%
運輸通信業	591	637	683	625	616	692	608	3%	-1%
電気ガス	53	87	82	75	94	80	72	36%	-23%
サービス業	1,845	2,058	2,289	2,726	3,162	3,606	3,859	109%	22%
公務	269	302	349	339	389	402	410	52%	5%
その他	16	1	14	3	10	17	9	-44%	-10%
総計	9,166	10,436	10,582	11,290	12,180	12,671	12,716	39%	4%

出所: 国勢調査

従業員ベースでみると、総数は1975年比で伸びているものの伸びは鈍化。
産業別でみると、農業は1995年に向けて減少傾向にあるもののその後伸びている。第2次産業は、製造業が1990年に向けて増加傾向にあるもののその後減少。第3次産業は、サービス業・卸小売業が順調に伸びている。

⇒ 農業は伸びているものの、製造業従事者は伸びておらず対応が必要

6

産業～就業人口の推移

商店数	1988	1991	1994	1997	1999	2004	2008	88-08変化
卸売業	68	68	63	59	73	87	88	29%
小売業	299	313	312	313	333	316	311	4%
各種商品小売	2	2	1	2	1	2	2	0%
織物・衣服・見 回り品	42	46	52	42	41	40	38	-10%
飲食品	84	83	85	84	93	89	88	5%
自動車・自転車	36	36	34	42	44	40	34	-6%
家具・建具・ じゅう器	32	31	25	29	226	26	28	-13%
その他	103	115	115	114	128	119	121	17%

年間販売額	1988	1991	1994	1997	1999	2004	2008	88-08変化
卸売業	806	888	412	915	464	543	515	-36%
小売業	433	502	490	550	515	537	577	33%
各種商品小売	X	X	X	X	X	X	X	X
織物・衣服・見 回り品	38	30	33	28	24	40	22	-42%
飲食品	75	74	134	73	142	138	151	101%
自動車・自転車	X	X	84	90	93	67	55	X
家具・建具・ じゅう器	25	30	25	29	226	21	20	-20%
その他	171	202	189	233	209	278	X	63%

単位: 億円

卸売業は商店ベースで伸びているにも関わらず、年間変化率では純減傾向が続いており苦戦。
小売業は比較的売り上げは伸びているものの、その中心は飲食料、その他産業である。

⇒ 明らかな構造転換が行われている可能性が示唆

出所: 商業統計調査

7

産業～製造業の推移

単位：件、人、億円

	総数		食料品		木材・木製品		家具・装備品	
	1999	2007	1999	2007	1999	2007	1999	2007
事業所数	42	31	12	9	7	7	3	1
従業者数	575	476	219	190	122	112	X	8
製造品出荷額	124	103	70	59	17	X	X	X

	出版・印刷等		窯業・土石製品		その他	
	1999	2007	1999	2007	1999	2007
事業所数	6	4	6	6	8	4
従業者数	X	66	73	65	X	35
製造品出荷額	X	5	21	16	X	X

出所：国勢調査

製造業は、出荷額総数また各分野ごとで見ても、ほとんど伸びが見当たらない。これは、前述の産業総額と同様であり、1次産業でのびた部分が必ずしも製造業に回っていない。

⇒ もし中標津町としての域内循環のみを考えれば問題だが・・・
広い範囲で循環(根釧含めた)を考えればプラスかもしれない

8

産業～まとめ

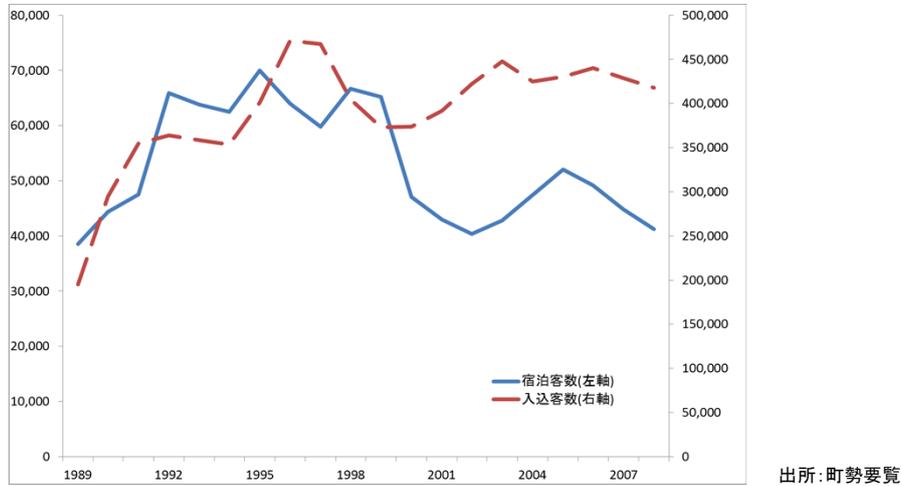
事業所・就業人口・商業・製造業からみた産業構造の特徴

- ① 人口に応じて、事業所総数は伸びている
- ② その伸びは産業ごとに大きく異なり、1次産業、3次産業は伸びているが2次産業の落ち込みは大きい
- ③ また3次産業の中でみると、卸売業は苦戦(しているものの商店数や従業員数はある程度確保)、小売業は順調な伸び(→大手の影響か？1店舗あたりが伸びている)
- ④ 製造業では伸びが見あたらない。食料品も期待が高いがここ8年間はほとんど大きな変化は見られない

⇒ 第3次産業が伸びているが、中心的な基幹産業になりうるのか？
 → 観光動向等の影響もうける。
 2次産業を基幹とするならば、抜本的な政策が必要？

9

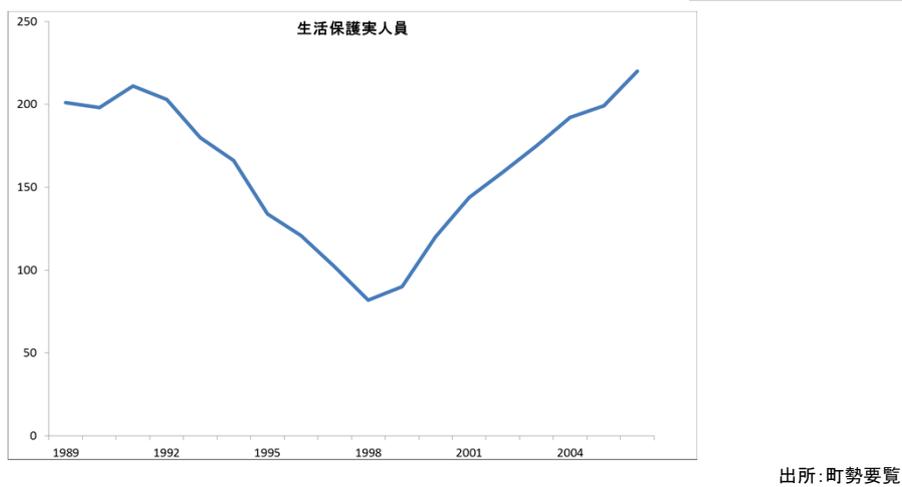
その他～観光



入込客数は、1989年時期と比べると順調に伸びているが、宿泊客数は、1995年あたりをピークに減少傾向 → 滞在型を増やすか、通過型の落とす金額を増やすかしなければ、3次産業に大きな影響

10

その他～生活保護



住民の生活状況を表す指標として、生活保護の実態を見ると、1998年をそこに増加傾向、直近の最大値である1991年を上回る状況に
→ 中標津町は人口増加とともに景気は良くなっている訳ではない？

11

その他～教育

N高校進路状況からみる地域経済への影響

	2006卒	2007卒	2008卒	2009卒	2010卒	2011卒
4年生大学	58	63	70	53	58	77
短大	11	16	18	14	15	11
専門学校	75	79	55	72	84	66
進学計	144	158	143	139	157	157
町内就職	45	38	32	38	31	36
その他就職	25	23	24	19	16	19
公務員	9	9	7	0	4	5
事務	30	18	21	27	15	18
営業・販売	12	11	10	3	7	9
技術・技能・建設・労務	7	0	5	10	14	9
製造業	5	18	8	3	1	2
サービス業	5	4	5	5	6	21
自営等	2	1	0	0	0	1
就職合計	70	61	56	57	47	65

出所:N高進路
各年番より作成

教育水準とその意義として、N高校の進路状況を考察

- 大学進学者はほぼ横ばい(やや増加傾向) → 高学歴化の志向?
- 地域での就職は減少の可能性があるものの一定割合を確保
- しかし、その受け皿は大きく変わってきている。サービス業が近年急増
→ 就職後の追試調査を行い、適切な人材育成が行われているか? をチェック

12

その他～教育

2010年11月実施 総合C学力テスト釧路市内中学校平均点

中学校	国語	数学	社会	理科	英語	合計
A中学校	34.4	33.3	40.2	38.2	41.6	187.7
B中学校	31.9	23.6	31.1	27.9	33	147.9
C中学校	28.8	20.6	28.9	22.8	25.1	126.6
D中学校	30	18	27	27	24	126
E中学校	31.9	16.6	26.5	24.3	24.6	124.6
F中学校	30.4	15.7	23.8	22.2	31.7	123.7
G中学校	32.5	17	24.8	23.8	21.1	119.1
H中学校	26.9	19.1	24.8	23.9	23.5	119
I中学校	28.3	17.6	25.3	21.1	25.2	117.3
J中学校	29	15.6	25.5	24.2	23.2	116.7
K中学校	29.4	18.1	25.3	26	20.3	116
L中学校	28.5	17.1	23.8	23.6	23.7	115.3
M中学校	26.4	20.7	21.3	21.4	21.4	112.5
N中学校	20.7	17	21.2	21	25.1	105.1
O中学校	25	18	23	25	24	105
P中学校	23.5	17.7	18.2	21.2	18.2	100.8

出所:釧路教育活性化協議会資料より引用

ちなみに、釧路の中学校の学力レベルは、1つが飛び抜けて後は低いレベルで団子状態 → 適切な人的資本につながりうるのかを要検討
→ 中学レベルの変化が高校、大学、企業へと...

13

農業

農家戸数の推移

	総農家数	1ha未満	1~10ha	10~20ha	20~30ha	30ha~
1980	572	6	20	31	117	398 (70%)
1985	511	1	11	24	59	416 (81%)
1990	481	0	8	14	34	428 (89%)
1995	444	1	6	14	24	399 (90%)
2000	390	2	6	5	6	372 (95%)
2005	370	2	10	3	5	350 (95%)

出所: 農業センサス

生乳生産量と農業粗生産額

単位: 百万円

	生乳		畜産				耕種		
	生産量	金額	合計	肉用牛	乳用牛	その他	合計	いも類	その他
1980	81,348	6,891	9,729	116	9,549	64	930	707	223
1985	98,162	8,853	11,490	133	11,336	21	1,482	1,160	322
1990	116,484	8,492	11,690	245	11,369	76	1,306	1,025	281
1995	135,494	9,888	12,276	339	11,872	65	988	781	217
2000	154,837	11,303	13,745	561	13,146	38	753	451	302
2005	176,795	12,910	17,080	700	16,330	50	790	410	380

農家の戸数は減少傾向かつ大規模農家も減少(あるいは吸収か?)
生産生乳、畜産は25年で倍増 → 農業の主役に。

14

農業

中標津町の農業ランキング

	中標津町				全道合計		
	1位	2位	3位	4位			
作付け等	耕地面積	別海町 63,500ha	標茶町 30,800ha	中標津町 24,500ha	音更町 24,300ha	1,169,000ha	
	普通畑	帯広市 21,100ha	音更町 20,500ha	芽室町 19,400ha	幕別町 14,100ha	412,200ha	
	牧草畑	別海町 63,000ha	標茶町 30,600ha	中標津町 23,500ha	浜中町 15,000ha	525,400ha	
	馬鈴しょ	網走市 140,700t	帯広市 131,400t	芽室町 129,600t	斜里町 122,300t	16,400t	223,500t
乳用牛	飼養頭数	別海町 107,800頭	標茶町 40,900頭	中標津町 38,400頭	浜中町 22,700頭	857,500頭	
	生乳生産量	別海町 466,481t	中標津町 175,206t	標茶町 171,060t	浜中町 96,088t	3,837,062t	
肉用牛	飼養頭数	士幌町 37,700頭	清水町 21,000頭	帯広市 18,700頭	新得町 18,500頭	4,350頭	447,700頭
農業生産額	合計	別海町 4,469千万円	帯広市 2,819千万円	音更町 2,538千万円	芽室町 2,526千万円	1,749千万円	109,420千万円
	耕種	帯広市 2,235千万円	芽室町 2,084千万円	音更町 1,977千万円	幕別町 1,599千万円	88千万円	59,390千万円
	畜産計	別海町 4,462千万円	標茶町 1,688千万円	中標津町 1,661千万円	清水町 1,215千万円		50,010千万円
	生乳	別海町 3,452千万円	中標津町 1,297千万円	標茶町 1,233千万円	浜中町 693千万円		28,130千万円
	肉用	士幌町 472千万円	足寄町 281千万円	清水町 260千万円	新得町 251千万円	52千万円	5,950千万円

出所: 農林水産統計年報

北海道内のランクを見ても、畜産に関わるものは上位。
道内におけるプライスリーダーになりうる生産量?(別海、標茶と並んで・・・)

15

畜産データ

・ 地域別畜産データ

	家畜				生乳生産量 トン
	乳用牛		肉用牛		
	飼養戸数	飼養頭数	飼養戸数	飼養頭数	
石狩	214	16,190	69	4,640	77,104
空知	99	7,130	124	10,880	41,243
上川	443	37,480	177	46,970	177,856
留萌	203	17,450	58	5,000	126,484
渡島	301	17,030	175	18,720	76,366
桧山	98	5,130	115	4,780	23,145
後志	107	6,250	65	4,460	29,599
胆振	18	1,180	17	480	48,743
日高	213	13,220	304	17,960	61,913
十勝	1,823	215,030	765	196,280	1,000,701
釧路	1,124	120,620	164	36,720	526,746
宗谷	765	71,190	61	5,380	280,305
網走	1,213	107,590	403	67,710	553,229
根室	1,518	183,530	144	22,670	775,687
北海道計	8,139	819,020	2,641	442,650	3,799,121
道東計	5,678	626,770	1,476	323,380	2,856,363

出所：北海道農林水産統計
年報より作成

支庁別にみると、
とはいえ、十勝地方の
影響力は大きい。
道内での競争に勝つ
ことが全国の競争に
勝つことに等しい？

16

畜産データ

・ 畜産関連の生産費に占める飼料費

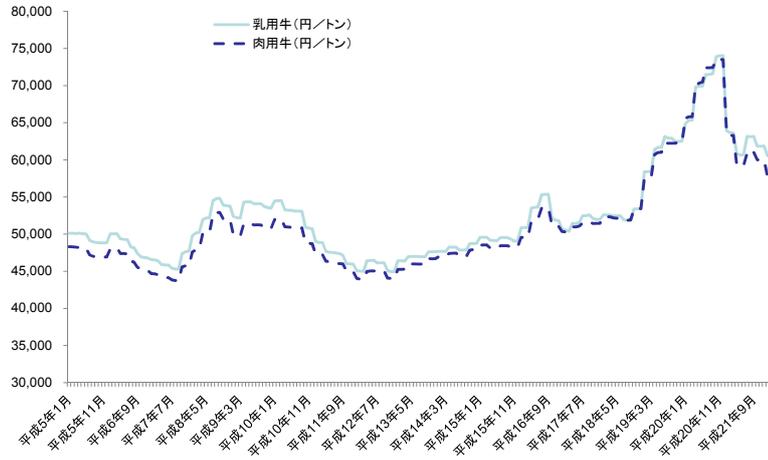
搾乳牛1頭当たり生産費					乳飼比		
種付料	飼料費	労働費	その他	費用合計			
北海道	10,714	299,048	138,057	231,447	679,266	20頭未満	25.6
	(44.0%)					20~30	25.3
全国	11,361	333,383	163,635	236,655	745,034	30~50	26.9
	(44.7%)					50~80	26.7
肉用牛1頭当たり生産費					80~100	28.7	
種付料	飼料費	労働費	その他	費用合計	100頭以上	30.6	
北海道	13,219	165,419	136,836	164,307	479,781		
	(34.5%)						
全国	17,240	171,771	172,684	146,310	508,005		
	(33.8%)						
肥育豚1頭当たり生産費							
種付料	飼料費	労働費	その他	費用合計			
北海道	53	19,746	4,431	7,415	31,645		
	(62.4%)						
全国	75	19,958	4,191	6,664	30,888		
	(64.6%)						

出所：平成21～22年 北海道農林水産統計年報
(総合編)より作成

出所：平成21～22年
北海道農林水産統計年
報(農業経営統計編)
より作成

搾乳牛にかぎらず、肉用牛、肥育豚いずれに
おいても飼料費はかなりの割合を占めている。
持続可能な経営には、安定的(あるいは低下
傾向)な飼料の確保が重要。
(※ 道内での循環が現状困難であるならば、安定的な移輸
入が必要)
現実的に、乳飼比は増加傾向にある。

畜産データ



出所:農水省「農作物価指数」より作成

総合計画からみる中標津町の動き

・ 今後の町づくりの特色について

第4期総合計画 1991年	第5期総合計画 2001年	第6期総合計画 2011年
産業が発展するまち 30.2	健康で安心して暮らせる町 38.7	健康で安心して暮らせる町 52.4
清潔で健康的なまち 23.4	酪農や商工業など活力ある産業の町 37.8	酪農や商工業など活力ある産業の町 36.7
福祉のあるまち 19.2	自然と共生する美しい町 28.7	便利で快適に暮らせる町 29.5
のどかなまち 8.0	便利で快適に暮らせる町 26.2	自然と共生する美しい町 20.5
教育文化のまち 7.0	町民同士がふれあい豊かに暮らす町 15.5	多くの人が訪れる観光・交流の町 17.1
便利なまち 4.5	広域的な拠点都市機能が集積した町 14.3	町民同士がふれあい豊かに暮らす町 13.4
スポーツ活動の盛んなまち 3.1	教育文化スポーツ等の水準の高い町 12.0	広域的な拠点都市機能が集積した町 11.7
美しいまち 2.8	多くの人が訪れる観光・交流の町 11.6	教育文化スポーツ等の水準の高い町 9.1

出所:中標津町 総合計画各期版より作成

20年間の変遷を見ると、産業振興というよりも、安全安心というまちを目指すことに価値を見いだしている。

総合計画からみる中標津町の動き

● 今後の町づくりの課題について

	第4期総合計画H3 住みやすい町への重要課題	第5期総合計画H13 今後の重点地域づくり分野	第6期総合計画H23 まちの各環境に関する重要度	
1位	保健・医療対策 60.4	高齢者や障害者などの福祉の充実 56.8	地域医療 7.1	1位
2位	道路網の整備 41.6	地域産業の振興、雇用の場の拡大 41.1	除排雪 6.3	2位
3位	高齢化対策 36.7	保健（健康づくり）・医療の充実 36.2	上水道 6.0	3位
4位	市街地の再開発 34.6	ごみ処理、リサイクルの充実 27.3	防犯対策 5.3	4位
5位	文化共用施設の整備 31.2	身近な生活道路の整備 25.2	廃棄物処理 5.3	5位
6位	公園・広場・緑地などの整備 27.4	自然保護、公害防止対策の充実 21.9	社会福祉・社会保 5.2	6位
7位	生活環境の整備 26.9	まちづくりを担う人材の各区保育生公園や広場、遊び場の整備 20.9	防災救急 4.9	7位
8位	観光開発の促進 26.8	除排雪の充実 20.7	農業 4.8	8位
9位	スポーツ施設の整備 26.3	公共交通機関の充実 19.0	高齢者福祉 4.8	9位
10位	工場などの企業誘致対策 25.5		健康づくり 4.7	10位

出所：中標津町 総合計画各期版より作成

今後の課題についても、かつては「産業振興」が上位にきていたが、直近では上位にきていない現状。

① 地域の内部データに基づいた時系列分析 まとめ

中標津町はどのように変わってきたのか？

- ・
- ・
- ・

どこに課題を置くべきであろうか？

- ・
- ・

地域間比較に基づいたクロスセクション分析

○ 地域特性の発見の仕方

地域特性について、自治体や都道府県はよく知っている(と言われている)

- なぜか？ → 財政部門は 類似団体という指標を持っている
→ 企画、その他部門は、補助金に関する事で地域特性を考慮している

私たちは、地域特性について、「なんとなく」の直観だけでしかわからないのが実情である

22

地域間比較に基づいたクロスセクション分析

○ 地域特性の発見の仕方

たとえば……どういった地域特性、地域格差があるのかについて以下のような例が挙げられる。

地域特性・格差分類	データ名
社会構造の格差	人口減少率 高齢者率
地域経済の格差	政令指定都市からの距離 一人当たり課税所得 完全失業率 観光入込客数 少子化率 医師・歯科医師数 医療・福祉就業者数 1次産業比率 2次産業比率 3次産業比率
地方行財政の格差	財政力指数 経常収支比率

しかし、これらのデータは、どれを使えばよいかは分かりづらい。
合成した指標を作ってみて、中標津町はどのような特徴があるのか、どこを規範とすべきか検討する。

合成指標を作る方法
= **主成分分析等**

23

地域間比較に基づいたクロスセクション分析

○ 地域特性の発見の仕方

一般の人も手に入れられる(インターネット等で入手可能)なデータをもとに検討

人口 : 総数、15歳未満比率等 7種類

経済 : 一人当たり課税所得、製造品出荷額等 6種類

財政 : 財政力指数、公債費比率等 4種類

教育 : 一人当たり児童数等 3種類

労働 : 完全失業率、他市町村への通勤比率等 3種類

その他: 千人当たり小売店数、一般病院数等 5種類

1990年~2005年の5年刻みの全市町村のデータから算出



計28種類のデータから、主成分分析をもとに5つの合成指標にまとめる

※ この5つで6割強の特性をまとめられている

24

地域間比較に基づいたクロスセクション分析

○ 地域特性の発見の仕方

①都市化指標・・・人口密度や労働人口比率等が高くなることによってこの値は大きくなる(この指標の大きな自治体:横浜市、芦屋市など)

②若者定住指標・・・15歳未満比率、一人当たり小学校児童数、出生率等が高いとこの値は大きくなる(この指標の大きな自治体:与那国町、朝日村(長野))

③主要産業発展指標・・・製造品出荷額、商品販売額、地方税等が多いとこの値は大きくなる(この指標の大きな自治体:飛島村(愛知県)等人口規模が小さく産業が発展している地域)

④都市のサービス化指標・・・3次産業比率、飲食店数等が多いとこの値は大きくなる(この指標の大きな自治体:沖縄市、軽井沢町等)

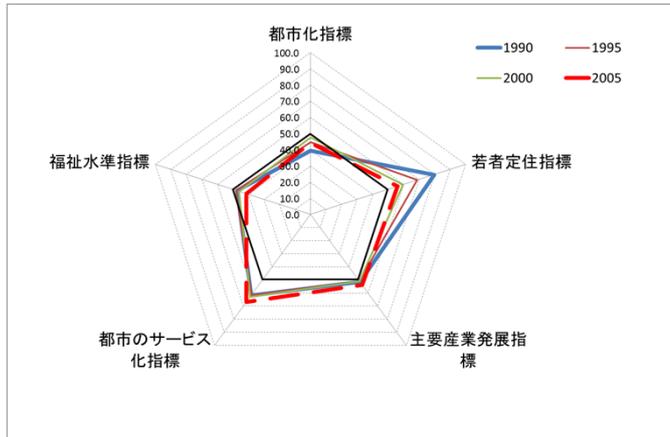
⑤福祉水準指標・・・診療所数、歳入総額等が多いとこの値は大きくなる(この指標の大きな自治体:西興部村、武蔵野市等)

25

地域間比較に基づいたクロスセクション分析

○ 地域特性の発見の仕方～中標津町編～

ここでは、数値をわかりやすく、偏差値のように、50を平均とし、中標津町が全国でどの程度であるかあらわしてみる。



都市化指標、福祉水準指標は、全国平均(黒線)を下回っているものの、その他の3指標は全国平均を上回っており、経済的にも人口構造的にもかなり上位に位置する自治体である。

26

地域間比較に基づいたクロスセクション分析

○ 地域特性の発見の仕方～中標津町編～

中標津町の位置づけの変遷について考える。

	都市化指標	若者定住指標	主要産業発展指標	都市のサービス化指標	福祉水準指標
1990	39.4 (40.7)	79.6 (72.8)	51.4 (50.9)	61.8 (60.0)	47.4 (44.5)
1995	44.7 (42.0)	68.8 (64.9)	51.0 (49.8)	61.6 (58.1)	47.9 (44.9)
2000	47.7 (45.3)	59.8 (57.2)	50.8 (48.2)	62.8 (56.6)	46.0 (46.5)
2005	44.3 (41.6)	56.2 (52.3)	53.8 (50.1)	66.9 (59.9)	41.2 (40.3)

※カッコ内は、根室管内市町村の平均



1990年から2005年の推移をみていくと・・・

都市化は町村レベルではかなり上位であるが、2000年をピークにやや下落傾向
若者も多い地域はキープしているものの、そのウェイトは小さくなっている

主要産業はほぼ横ばい。

都市のサービス化指標はもともと高かったが、さらに高い(近隣の商業の集積)
福祉水準は、やや低下傾向にある(都市規模からいえば平均ぐらい)

27

中標津町経済分析 まとめ

中標津町はどのようなマチであるのか？

-
-
-

本分析の課題と今後の展望

-
-
-